

平成26年1月23日

独立行政法人国民生活センター

消費生活センター等の依頼に基づいて実施した商品テスト結果をご紹介します。

婦人靴のヒールが取れて踵に受傷

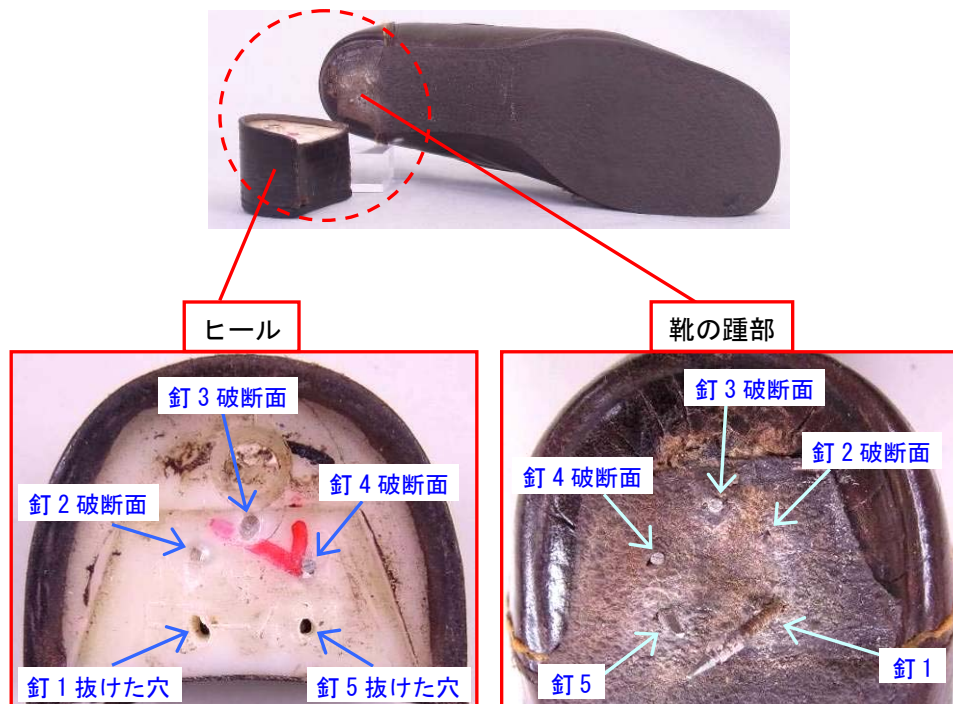
1. 依頼内容

「約2年前に購入した婦人靴を履いて階段を下りたところ、高さが約5cmのヒールが取れ、靴底に残った釘が右足の踵^{かかと}に刺さって負傷した。ヒールの取付強度に問題がないか調べてほしい。」との依頼を受けました。

2. 調査

この商品は、高さ約4.5cm、幅約5.2cmの太いヒールのこげ茶色の皮製のパンプスで、当該品の右足用のヒールは完全に脱落しており、固定用の5本の釘のうち、3本は折れ、2本はヒールから抜けていました（写真）。

写真 当該品（右足用）の外観



右足用のヒールの折れた釘3本の破断面を拡大観察したところ、2本の釘の破断面には赤さびが発生しており、また破断面の形状から疲労破断と推察されました。当該品の右足用のヒールが取れたときには5本中少なくとも2本の釘が既に疲労破断しており、取付強度が低下してヒールが取れたと考えられました。

次に、当該品と同じような高さ・太さのヒールのパンプス数種を参考品として、ヒール取付部の様子を当該品及び当該品の同型品（新品）と比較しました。当該品、同型品のヒールを固定する釘は、参考品と本数は同じでしたが直径が細く、参考品ではヒール取付面全体にわたって接着剤で接着されていた様子がみられたのに対し、当該品及び同型品ではヒール取付面に接着剤の跡がほとんどみられず、接着剤が使用されていないか、または少なかった可能性があります。さらに、ISO 22650に準じてヒールの取付強度を調べたところ、当該品及び同型品は参考品より取付強度が弱いことが分かりました。

3. 解決内容等

依頼センターから製造事業者にテスト結果を伝えたところ、「お客様の安全・安心を守るためにヒール取付方法の見直しや製造技術の向上など、製品品質の向上に努めてまいります。」との回答がありましたが、品質には問題がないとの見解でした。そこで、相談者がテスト結果を踏まえて購入先に交渉したところ、購入先から相談者に購入代金が返金されました。また、依頼センターから購入先にテスト結果を伝えたところ、購入先と製造事業者で改善策が協議され、ヒールの取付基準等が取り決められ、購入先の内部基準の見直しも行われました。

本件問い合わせ先

商品テスト部：042-758-3165